つむぎ通信 vol.16

在宅連携センター「つむぎ」
TEL/053-451-2807 FAX/053-451-2808
soudan@hamamatsucity-medical-co.jp
在宅連携センターつむぎ浜松 検索

在宅連携センターつむぎは、高齢者を支える医療・介護・福祉関係者の相談窓口として、2015年度に開設しました。「つむぎ通信」は2019年度から在宅連携センターつむぎの周知と情報発信のため発行しています。バックナンバーはこちらから ➡ https://www.hmedc.or.jp/tsumugi/archive/

訪問診療医を探すには・・？

つむぎには、訪問診療や往診が可能な病院を探しているという相談をいただきます。終末期を在宅で過ごしたい、身体機能の低下により通院が困難になった、専門医の往診を受けたいなど理由はさまざまです。

そこで、受診先探しのポイントをいくつか紹介したいと思います。

【ポイント1】まずは現在のかかりつけ医にご相談

長く通院してきた医療機関は、本人の病気や生活の歴史を知っています。

24時間対応ではなくても、往診対応可能な医療機関は多くあります。まずは相談してみてください。

【ポイント2】目的に合った医療機関を探す

「往診」「訪問診療」「在宅療養支援診療所」など医療機関によって対応できる内容はさまざまです。

「往診」は突発的な要請に応じて訪問、「訪問診療」は計画的な定期訪問、「在宅療養支援診療所」は24時間連絡がとれて、訪問できる医師・看護師の体制を確保している医療機関です。

本人にとって何が必要なのか、目的をはっきりさせて医療機関を探す事が重要です。

【ポイント3】医療機関を探す方法を知る　※確実な情報は各医療機関にお問い合せください。

ポイント2でも挙げた「往診」「訪問診療」「在宅療養支援診療所」などをキーワードに医療機関検索ができるシステムがあります。医療機関選定にお役立てください。

★医療ネットしずおか　https://www.qq.pref.shizuoka.jp/qq22/qqport/kenmintop/ ➡

その他の方法で探す⇒医療機関の特徴から探す

⇒介護・在宅医療から探す⇒対応する事ができる在宅医療

★浜松市医師会　https://hamamatsu-ishikai.com/zaitaku/ ➡

在宅医療機関マップ⇒在宅医療への対応一覧(PDF)※PDFは当該ページ上側にあります

【ポイント4】困った時はつむぎへ相談

ささいな事でも大丈夫です！お気軽にご相談ください。

地域包括ケア病棟について、つむぎホームページに掲載しました

地域包括ケア病棟について問い合わせをいただく機会が多かったため、その役割や対象となる方をまとめました。つむぎホームページ内の「社会資源お役立ち情報」に掲載しましたのでご一読ください。

浜松市内の「地域包括ケア病棟のある病院一覧」も掲載していますので、問い合わせ等にご活用ください。このほか「介護老人保健施設(老健)」・「介護医療院」・「医療療養」についても、「社会資源お役立ち情報」に掲載しておりますので、あわせてご確認ください。

https://www.hmedc.or.jp/tsumugi/resource/ ➡

＜裏面に続きます＞

相談事例Q＆A～相談内容を紹介します～

Q → がん末期、自宅での生活継続に心配がある。病院以外の居場所を探している。
(ケアマネジャー)

A → 看護師が24時間対応で、医療依存度の高い人も受け入れ可能な、サービス付き高齢者向け住宅と有料老人ホームの情報を伝えた。

Q → 精神疾患がある人の対応を得意としている、訪問看護の情報を知りたい。
(ケアマネジャー)

A → 精神特化型の訪問看護と、精神疾患の対応も可能な訪問看護ステーションの情報を伝えた。

Q → 高次脳機能障害の方で就労希望がある方の相談先を知りたい。(ケアマネジャー)

A → 高次脳機能障害に関する相談全般を静岡県から委託を受けている事業所(高次脳機能障害支援拠点)の情報を伝えた。

ＡＣＰに思うこと‥私の看取りの経験から‥

ＡＣＰ(アドバンス・ケア・プランニング)は「人生の最終段階の医療・ケアについて、あらかじめ話し合っておくプロセス」のこと。通称「人生会議」。浜松市もＡＣＰの普及を目指し、地域包括ケア推進連絡会のＡＣＰ部会で「人生会議手帳」の作成、ACP要請リーダー育成研修等を行っています。
私も事務局の一員として関わることができたことはとても印象深いことでした。

今回は私の看取りの経験からＡＣＰへの思いを伝えたいと思います。

私は１０年ほど前に母を自宅で見送りました。亡くなる５年程前にがんの診断を受け、放射線療法の後は積極的な治療を希望せず、対症療法、緩和ケアを選び、ほぼベッド上の生活になって半年ほどで旅立ちました。日中独居の生活でヘルパーさんや訪問看護師さんにお世話になりました。他県の姉も時々帰省し介護してくれて、ぎくしゃくしていた親子関係が修復されました。動けるうちに北海道旅行にも行けました。当時中学生だった娘は母へ歌を歌ってあげたり、雷の夜に添い寝してくれたりと、夫と共に私をサポートしてくれました。母は亡くなっていく過程を家族に示してくれました。もっと優しくしてあげればとか、もっと知り合いにお見舞いに来てもらえば良かったかなとか、心残りはあります。しかし、本人の希望に添い、家で看取ることができたことに満足しています。関わっていただいた方々への感謝でいっぱいです。この経験はつむぎの仕事にとても活かすことができました。

「入院したくない」という母の意思を受け取り、家族と支援者とでできることをしました。ＡＣＰは「どう生きたいか」意思決定の延長線上にあります。
関わる人は本人の思いを拾い、皆でピースをつなぎ合わせ本人の意思を尊重していくことが大切ではないでしょうか。構えすぎず「何をしたい？」と何気なく聞いていくことが第一歩ではないかと思っています。　(水﨑)

つむぎ事務所が移転しました

２０２４年(令和６年)１月の浜松医療センターの新病棟開設に伴い、つむぎ事務所はＡ棟（新病棟）２階に移転しました。なお、移転による電話番号等の変更はありません。
また、浜松市の区再編により、所在地は「浜松市中央区富塚町３２８番地」になります。